

## 台風、そして台風、さらに台風・・・

校長 田中 準三

それは、9月4日（水）の昼頃でした。台風17号の影響で大雨となり、神戸市に気象警報が発表されました。登校後の警報発表はめったにありません。子どもたちの下校に関して職員と相談の結果、給食後時刻を決めて集団で下校させることとし、校長と教頭が手分けをして電話連絡網で保護者の皆様にそれを伝えようとなりました。しかし、下校予定時刻頃には更に雨脚が強まり、子どもたちを学校に留め置かざるを得ない状況となっていました。電話連絡網は残念ながらうまく機能せず、連絡のついたご家庭からも、「下校時刻になっているのにまだ帰って来ない。」反対に「こんな激しい雨の中を帰すのか。」といったお叱りも受けました。その際は保護者の皆様には本当にご心配とご迷惑をおかけしました。現在、その事態を教訓として一斉連絡メールシステムの導入が決まり、手続きが進行しています。皆様には今しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

2学期は台風17号を皮切りに次々と台風が日本に接近あるいは上陸しました。中でも京都嵐山の渡月橋などに大きな打撃を与えた18号、伊豆大島で多くの人命を奪った26号、そして大きな被害は免れたもののやきもきさせられた27・28号のアベック台風と矢継ぎ早にやってくる台風に振り回された感があります。今年の台風の発生個数そのものは、10月28日現在で28個と特に多いわけではありません。（平年が約26個ということです。）しかし、10月に入って日本に近づいた台風の数5個はこれまでの記録（4個）を更新したそうです。ただ、大きな被害をもたらす台風はどうしても悪者扱いをされてしまいがちですが、一方で台風による効用も見逃してはなりません。人口密度の高さや地形の関係等から降水量は多いのにも拘わらず水不足に悩まされる沖縄県では、多くの家で屋根の上にタンクを設置して、台風の大雨の時の水を溜めているそうです。また、高知県の早明浦ダムでは2005年に貯水率0%という渇水を記録しましたが、その時の台風による降雨でわずか1日にして貯水率が100%になった例もあります。阪神淡路大震災や東日本大震災などによって、私たちの防災に対する意識が高まっています。自然現象は人間の力ではどうすることもできません。自然現象とどう付き合い、自然災害からどのように身を守っていくかは、人間に与えられた永遠の課題にほかなりません。

学校では今、子どもたちが16日（土）の音楽会に向けて懸命に練習に取り組んでいます。その日こそは気持ちのよい「秋晴れ」になればと願っています。保護者多数の皆様のご来校を心よりお待ちしております。